

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3190331号
(U3190331)

(45) 発行日 平成26年5月8日(2014.5.8)

(24) 登録日 平成26年4月9日(2014.4.9)

(51) Int.Cl. F 1
G 0 6 F 3/03 (2006.01) G 0 6 F 3/03 4 0 0 F

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2014-910 (U2014-910)
(22) 出願日 平成26年2月5日(2014.2.5)(73) 実用新案権者 599176584
松浦 俊明
福島県福島市上鳥渡字しのぶ台13番地の
13
(72) 考案者 松浦 俊明
福島県福島市上鳥渡字しのぶ台13番地の
13

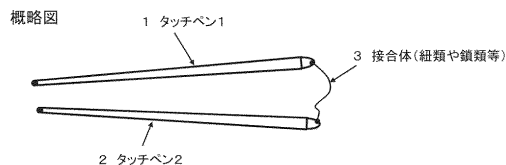
(54) 【考案の名称】 情報端末操作用タッチペン

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】画面を操作するタイプの情報端末を操作する際に、多様な操作を容易に行なえるタッチペンを提供する。

【解決手段】一対(二本)のタッチペン1, 2を接合体(紐類や鎖類等)3でつなぎ合わせて一体化し、容易に離れないような構造にする。これにより、すぐに箸のように持って使用すること出来、操作の途中で持ち替えたりしなくても、連続かつ多様な操作を効率的に行なうことが可能になる。すべての操作において、指先を直接画面に触れることが不要となって、衛生面での優位性も増す。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

一対（二本）のタッチペンを接合体（紐類や鎖類等）でつなぎ合わせて一体化し、箸のように持って多様な操作を可能にできることを特徴とするタッチペン

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、画面を操作するタイプの情報端末を操作する際に、多様な操作を容易に行えるよう、一対（二本）のタッチペンを接合体（紐類や鎖類等）でつなぎ合わせて一体化し、箸のように持って操作できることを特徴とするタッチペンに関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

画面上で操作するタイプの情報端末にあっては、指またはタッチペンによって操作するが、画像を拡大したり縮小したりするには、指の幅を開いたり狭めたりする操作が必要になり、普段はタッチペンを使用している、その時には指操作に変更する必要がある。

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

画面を操作するために、タッチペンを使用するニーズは、操作スピードや確実性、衛生面の考慮等が考えられるが、画像の拡大や縮小指示操作は指を開いたり狭めたりしなければならないこともあるため、ペンの持ち替えなどが必要になる。

20

上記課題に対し、持ち替える必要が無いタッチペンを考案する。

【課題を解決するための手段】

【0004】

一対（二本）のタッチペンを紐状の物体でつなぎ合わせて一体化し、箸のように持って使用することで、操作の途中で持ち替えたりしなくても連続かつ多様な操作をスムーズに行えることができることを特徴とするタッチペンを考案する。

二本のタッチペンをつなぐのは容易に離れてしまうのを防止できる点であり、分離できる機能の有無は問わない。

【考案の効果】

30

【0005】

二本を同時に使うため、容易に離れてしまわないようにすることで、すぐに箸のように持って使用が可能になる。

一本で操作する場合の他に、画像の拡大や縮小指示操作はペンを開いたり狭めたりすればよく、持ち替えることなく効率の良い操作が可能になり、利便性が増す。

更に、指先を直接画面に触れることが不要となって、衛生面での優位性も増す。

【図面の簡単な説明】

【0006】

【図1】全体の概要図面である。

【考案を実施するための形態】

40

【0007】

一対（二本）のタッチペンを接合体（紐類や鎖類等）でつなぎ合わせて一体化する。

本考案において、二本のタッチペンをつなぐのは容易に離れてしまうのを防止できる点であり、分離できる機能の有無は問わない。また、つなぐ場所を特定するものでもなく、紐状の接合体の材質を特定するものでもない。

【符号の説明】

【0008】

1 タッチペン1

2 タッチペン2

3 接合体（紐類や鎖類等）

50

【図 1】

概略図

